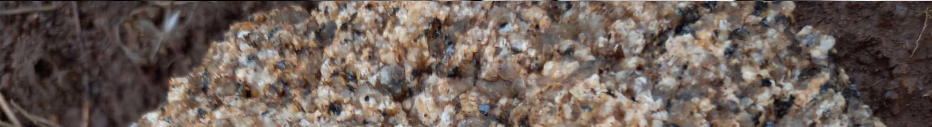


Gonzalo Guzmán Vinos G2



品種の多様性に魅了され、 チリにヨーロッパの風を吹き込む立役者。

チリの赤ワインといえば、カベルネソーヴィニヨン、カルメネール。
白ワインといえばシャルドネ、ソーヴィニヨンブラン。

チリのカベルネソーヴィニオンは、十分な日照量をもたらす重厚感のある作りで、スパイシーさや樽の風味が強く、タンニンのしっかりとした厚みのあるワインが特徴的です。一方の白ワインも、ごくライトな軽い飲み口のワインか、果実の風味豊かなトロピカルフルーツ系のワインが多く、リッチでふよやかなバランスのものが多く作られています。

しかしながら、そんなワインとは一線を画する、新しいワインを作り始めたのが【Vinos G²】です。オーナーであり、醸造家のゴンザロ・グズマン氏は、若かりし頃修業したスペインで、実に多様なブドウ品種に出会います。ヨーロッパ特有のブドウ品種は古くから土地に根付き、今なお受け継がれるブドウに彼は魅了され、品種の「バラエティ」という、チリにはない魅力に気づき始めます。彼はこの多様なブドウを何とかチリで根付かせることが出来ないかと野望を抱き始めました。

帰国後、醸造家として様々なワインプロデュースに携わったゴンザロ氏は、再びスペインを訪れ、6つの品種のブドウの苗木を携え、チリで栽培することを決意します。

生態系に変異を与えかねない植物の苗木を持ち込むことは困難を極めました。数年がかりでいくつもの検疫や厳しい調査をパスし、晴れてチリの土地に植えられました。2010年に植えられた苗木は約10年の時を経て実を結び、彼の描く「チリワインの未来」への第1歩を踏み出し、新しいチリワインの歴史を築き上げようとしています。



ブドウ栽培地の新しい区分

COSTA	Blue
SIERRA CONDILLAS	Green
ANGEL	Orange
SANTIAGO	Yellow

Gonzalo Guzman ゴンザロ・グズマン

生産者であるゴンザロ・グズマン氏は、チリで4大ワインと称されるヴィーニャ・エルプリンシパルの「エルプリンシパル」の醸造責任者。CHムートン・ロートシルトや、オーパスワン、アルマヴィーヴァなど名だたるワインを手掛けたパトリック・レオン氏の愛弟子でもあり、パトリック氏と共に手掛けたワインは確かな実力を持っています。そんなゴンザロ氏が満を持して我が名を冠したワイナリーを設立。パトリック氏から受け継いだ技術と彼の独自のテクニック、フィロソフィーが凝縮されたワインです。



チリワインの常識を覆すようなワイン作り

チリで造られるワインの多くは、豊富な日照量をもとに、重厚感のあるワインとされるか、冷涼地で造られる爽やかなごく軽いワインが主体です。

一方で、ゴンザロ氏の造るワインは今までにない新しいチリワインのスタイルです。

通常、完熟したブドウを選別して収穫されるところを、非常に早い時期で収穫することによって、ワインに十分な酸とフレッシュさを与えます。発酵にも自然酵母が使われ、熟成は澱と共に、さらに攪拌されながら行われるバトナージュを行い、樽の過剰な風味がつかないように敢えて古樽で熟成されます。瓶詰めの際にはフィルタリングをせず、自然に沈殿した上澄みをとって瓶詰めされます。

こうした一つ一つの丁寧で計算されつくした作業によって、ワインの味はいはより自然なものとなり、画一化されたワインではなく、ボトル1本1本に違いが出るような、旨味とブドウの個性が凝縮された唯一無二のワインが生み出されるのです。

